



阿弥陀如来立像 (県指定重要文化財)

- 鎌倉後期の安阿弥作で像高約60センチ快慶風の堅実な弥陀三尺像です。保存も良好で漆はくも当初のものと思われ、胎内には、約千枚の刷り仏が納められており、法然上人御生所御本尊とある刷り仏も多数発見されたことから、この像は誕生寺旧本尊で、寺が法然上人の御生所であることを確証する資料でもあります。



秦氏君・御鏡

母の秦氏が法然上人との別れを悲しんだ
母の涙あとが残る手鏡。

それ以来、涙が残った手鏡には、一生顔
が映らなくなってしまった。



木造釈迦如来像 (県指定重要文化財)

—
像高1m足らずの南北朝時代の清涼寺式の作品とされる釈迦仏。

この像は中国からわたって来た物で、体の中に臓器があるとされていて、国宝になった。国宝となった、京都・清涼寺のお釈迦様をまねてつくられた仏像。

西日本では極めてめずらしい。



絵位牌 (県指定重要文化財)

- 元禄6 (1691) 年の墨書銘がある美しい絵位牌。

高さ約30センチ、幅約22センチの小型の厨子の中に、菱川師宣の筆を伝える端座した妙麗の美人の姿

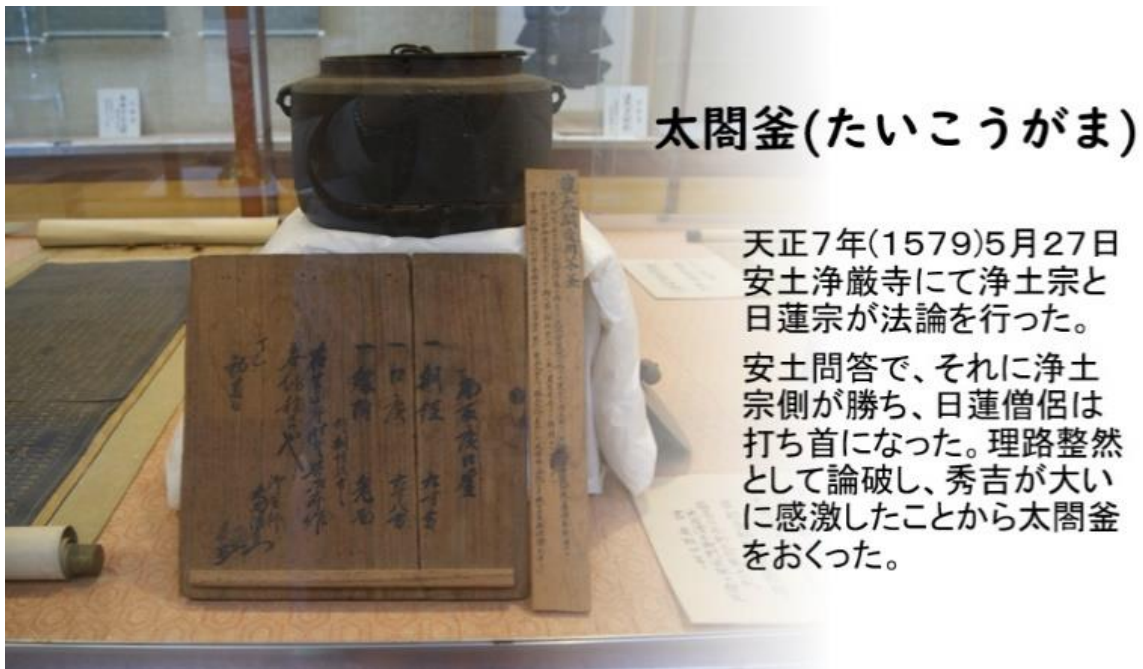
(安藤前舟波守重保娘影像)が描かれています。



櫓時計(やぐらどけい) (県指定重要文化財)

—
天保12年(1841)11月に兵庫屋ナツという人から4人の菩提を弔うために寄進した。徳川家の家紋が正面にうっすらと残っている。制作者は津田助左衛門(徳川家お抱え時計士)である。





太閤釜(たいこうがま)

天正7年(1579)5月27日
安土浄厳寺にて浄土宗と
日蓮宗が法論を行った。

安土問答で、それに浄土
宗側が勝ち、日蓮僧侶は
打ち首になった。理路整然
として論破し、秀吉が大い
に感激したことから太閤釜
をおくった。



仏足跡

お釈迦様の足裏を写した物。

大きさ(約40cm)

輪相という模様や複雑な筋がある。



黒髪名号

中将姫が自分の髪の毛を編み込んで
「帰名尽十方無ゲ光如来」と書いた。